

陽東地域コミュニティ活性化プロジェクト ～ごみ問題を通して～

対象地域：陽東地区
パートナー：陽東自治会

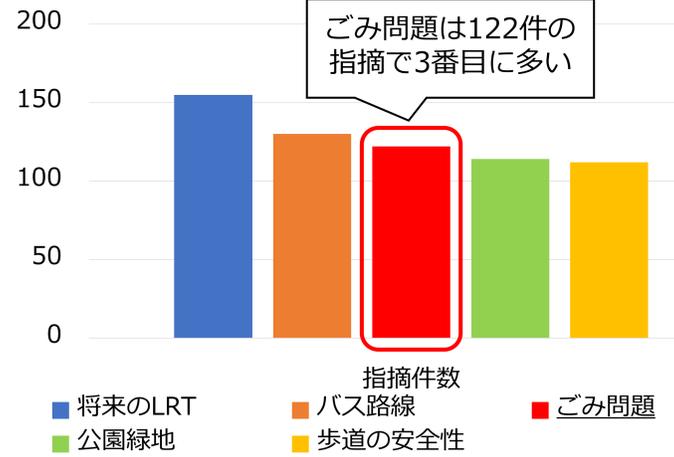
2班 コミュニティデザイン学科 平山安奈 吉川紗也子
建築都市デザイン学科 喜多ひかり 嶋田樹
社会基盤デザイン学科 長田一輝 馬場翔太郎

背景

- 陽東地区の自治会をはじめとする各団体の高齢化と若者の担い手不足
- 多くの宇大生が居住しているが、地域との関係性が希薄である
- 陽東地区の毎年行っているアンケートからごみ問題に関する意見が多数
中には宇大生に対する意見も...

陽東地区に住む宇大生と地域の方々には「ごみ出し」という共通点

ごみ問題を通して宇大生と陽東地区の地域の方々をつなぐことはできないだろうか



目的

—ごみ出しを通じた地域コミュニティの活性化—

背景より、ゴミ問題の改善が課題解決のキーポイントとなることが把握された。また、陽東地区の住民と学生の関わりが求められていることも抽出された。よって、私たちは**学生と陽東地区の共通点であるごみ出し**に着目し、「**ごみ出しを通じた両者の交流によって地域コミュニティの活性化につながる**」と考え、これを目的とする。

図1 陽東地区のアンケートにおける指摘件数TOP5

表1 陽東地区のアンケート概要

会員総数	2,158戸
回答数	1,131件
回答率	52.4%

方法

(1) 分別意識・ごみ出しの時間調査

- 対象：陽東祭に来場した地域住民、自治会役員
- 回答件数：46件(アンケート)、12件(聞きとり調査)

(2) 近隣住民から学生への意見調査

- 日時：12月5日(水)
- 対象：宇都宮大学学生支援課

(3) 学生の意識調査

- 対象：宇都宮大学の学生
- 回答件数：51件

分析結果

(1) 分別意識・ごみ出しの時間調査

ごみの分別意識についてはほぼ全員が「した方が良い/実際にしている」と回答した(表2)。このことから、分別意識は高いと考えられる。

ごみ出しの時間については、理想・実際ともに午前6時～8時頃に回答が集中した。自身の都合の良い時間に出したいという意見もあったが、多くの人が散らかりなどを考慮して回収時間に合わせて出していることがわかった(表3)。このことから、**前日の夜に出しても散らからず近隣の迷惑にならないようなゴミステーション**があれば良いのではないかと考えられる。

聞き取り調査では地域住民の方から**大学生のごみ出しマナーの悪さ**を指摘する声や、**分別レベル**を問う声が上がった。

(2) 近隣住民から学生への意見調査

- ごみ収集の曜日の間違い、分別していない、捨て方が悪くごみが散乱している
- しかしながら、宇大生がやったと確証があるものではない
- 宇大生の信頼がない**

(3) 学生の意識調査

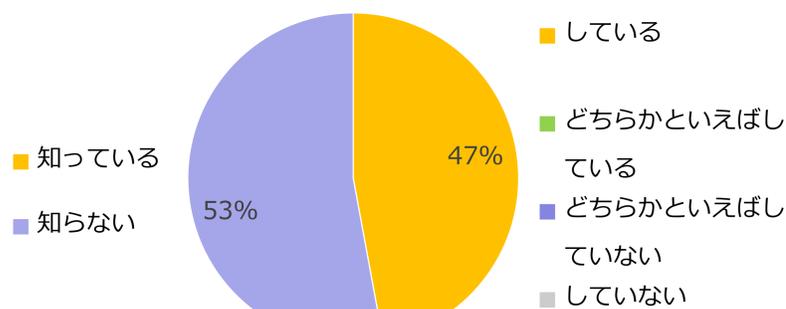


図2 資源ごみがお金になることを知っているか

図3 ゴミの分別をしているか

表2 ごみの分別意識調査(回答理由)

実際\理想	分別した方が良い	分別しなくても良い
分別している	<ul style="list-style-type: none"> 資源を大切にすることに関心があるから 市で決められているため 分ければ資源なので 	<ul style="list-style-type: none"> 分別はしているが面倒臭いのでやりたくはない
分別していない	<ul style="list-style-type: none"> 面倒臭い 	<ul style="list-style-type: none"> 回答なし

表3 ごみ出しの時間調査(回答理由)

実際\理想	回収前日の夜	回収当日
回収前日の夜	<ul style="list-style-type: none"> 回答なし 	<ul style="list-style-type: none"> 当日の朝に出しているが、忙しいので前日の夜に出したい
回収当日	<ul style="list-style-type: none"> 当日の朝に出した方が良いと思っているが、前日の夜の方が都合が良い 	<ul style="list-style-type: none"> 臭いや動物による散らかしを考えると、出勤時間に合わせて回収時間に合わせて早く出した方が良いと思うので

提案内容

資源ごみ～ごみ集めコンテスト～【YOTO-G1グランプリ】

- 陽東地区の自治会ごとに資源ごみを回収し、資源ごみの重量を人口で割った「**ごみ回収率**」で競う
- 学生のごみ出しマナーを改善し、学生が地域の人と顔を合わせることで地域に参加する
- 最終的に上位の自治会には景品として地域イベントで使える商品券などを渡す

フタつきで分別可能なゴミ箱を試験的に設置する

- 地域の人々はゴミステーションでのごみの散乱を問題視している
- 学生は特に資源ごみに関して指定日に出せないことに不満を持っている
- 問題点が改善されるのかどうか試験的に設置し、経過を観察する



【YOTO-G1グランプリ】スタート(4月頃)

学生に参加してもらえるように呼び掛ける(授業等)



中間発表(10月頃)

地域のイベントに出席する人が増加する



最終結果発表(3月頃)

換金で得たお金の一部をイベントで使える商品券などの景品にする

図4 ごみ集めコンテストの流れ